第４回印西市地域公共交通会議

印西市の現状把握

令和２年２月３日（月）

印西市

ー 目 次 ー

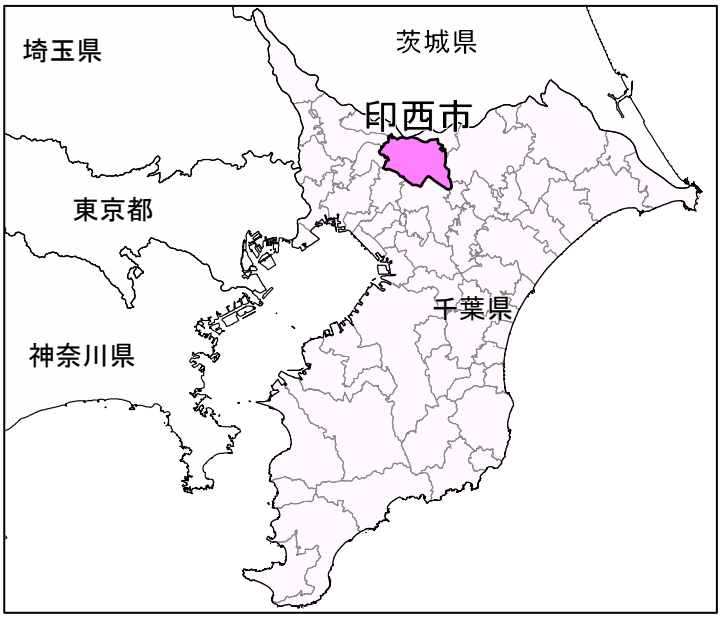
１.市の現状把握 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．１ 地理・地勢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．１．１ 地理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．１．２ 地形条件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１．１．３ 土地利用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
１．１．４ 道路整備状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
１．２ 社会情勢、経済状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
１．２．１ 人口、世帯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
１．２．２ 生活圏等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
１．２．３ 産業・経済 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
１．２．４ 主要施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
１．２．５ 財政状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
２.市の公共交通の現状把握 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
２．１ 公共交通の整備状況・運行状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
２．１．１ 公共交通施設整備状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
２．１．２ 公共交通のサービス状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
２．１．３ コミュニティバス（ふれあいバス）、
乗合タクシー（スワン号）の運行状況 ・・・・・ 47
２．２ 公共交通の利用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
２．２．１ 鉄道・バスの利用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
２．２．２ コミュニティバス（ふれあいバス）・乗合タクシー（スワン号）
の利用状況 ・・・・ 49
２．２．３ 大規模交通実態調査データによる交通特性の把握 ・・・・・・・・・・・・・ 50

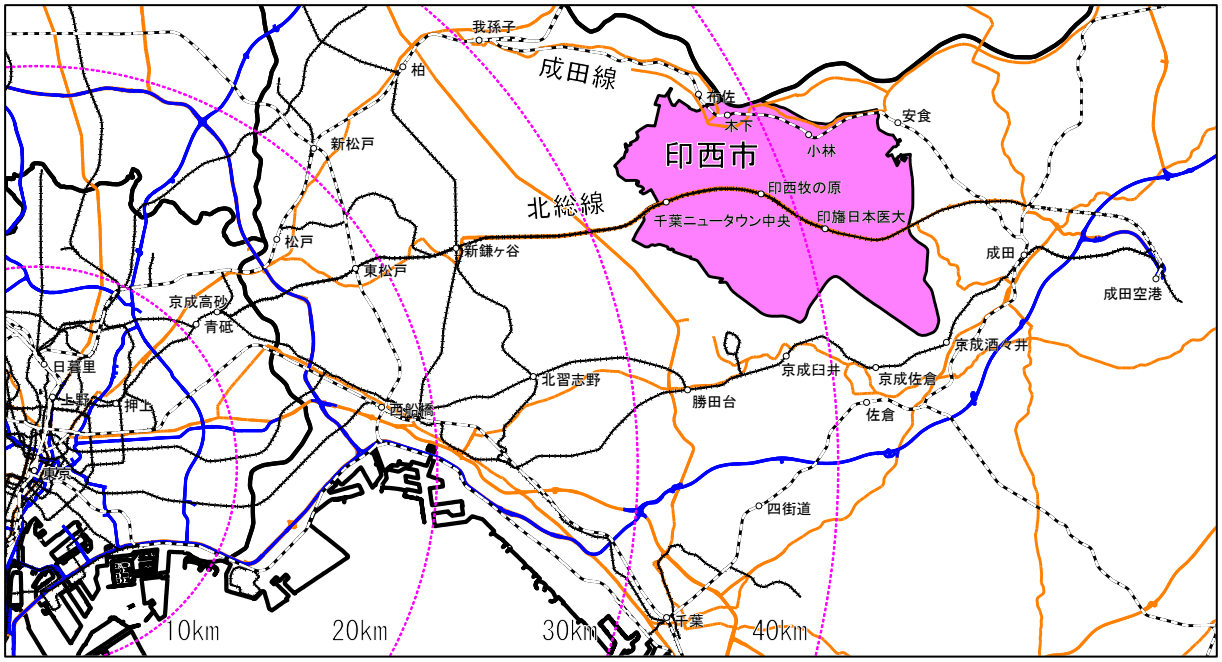
1.市の現状把握

1.1　地理・地勢

1.1.1　地理

・印西市は、千葉県の北西部、東京都心から約 40km、千葉市から約 20km、成田国際空港から約 15km に位置し、西部は柏市、我孫子市、白井市に、南部は八千代市、佐倉市、酒々井町に、東部は成田市、栄町に、北部は利根川を挟んで茨城県に接しています。





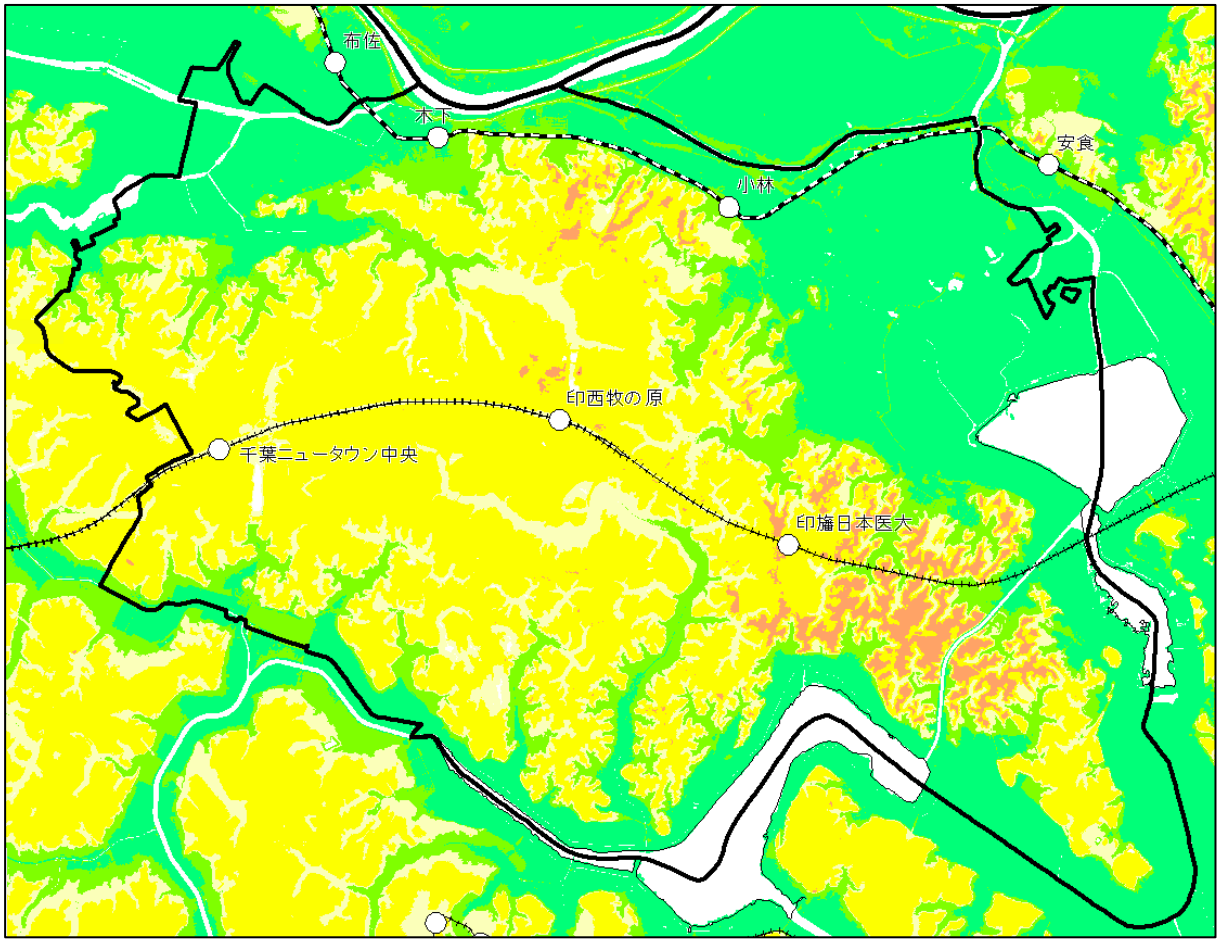
出典:国土数値情報

図 1　印西市の位置

1.1.2 地形条件

・印西市は、北側の利根川、東側と南側の印旛沼に囲まれ、利根川・印旛沼周辺には標高が 0m～5m程の低地部が広がっています。一方、市中央部に標高 20m～30mの平坦な下総台地が広がっています。

・そのため、低地部内及び台地部内は勾配が少なく徒歩での移動に負担が少ないところですが、低地部と台地部との間の移動については上下移動を伴う地形となっています。



凡 例						
JR線	標高【m】					
私鉄		0 以上	5 未満		20 以上	30 未満
鉄道駅		5 以上	10 未満		30 以上	40 未満
		10 以上	20 未満		40 以上	

出典：基盤地図情報(H28.9～R1.5)(※メッシュごとに最終更新日が異なる)

図 2 印西市及び周辺地域の地形条件

1.1.3　土地利用

(1)土地利用

・印西市の面積は 123.8 ㎢で、このうち、市街化区域が 19.1 ㎢、市街化調整区域が 104.7 ㎢となっており、ＪＲ成田線及び北総線の駅の周辺に市街地が形成されています。
・このうち、ＪＲ成田線の駅周辺は主に住宅用地として、また、北総線の駅周辺は主に商業用地や住宅用地として利用されています。
・一方、鉄道駅から離れた地域には集落が点在し、低地部は田、台地部は畑、山林、ゴルフ場などに利用されています。

凡例

【自然的土地利用】
- 田
- 畑
- 採草放牧地
- 荒地、耕作放棄地
- 山林
- 水面
- 原野・牧野、河川敷等

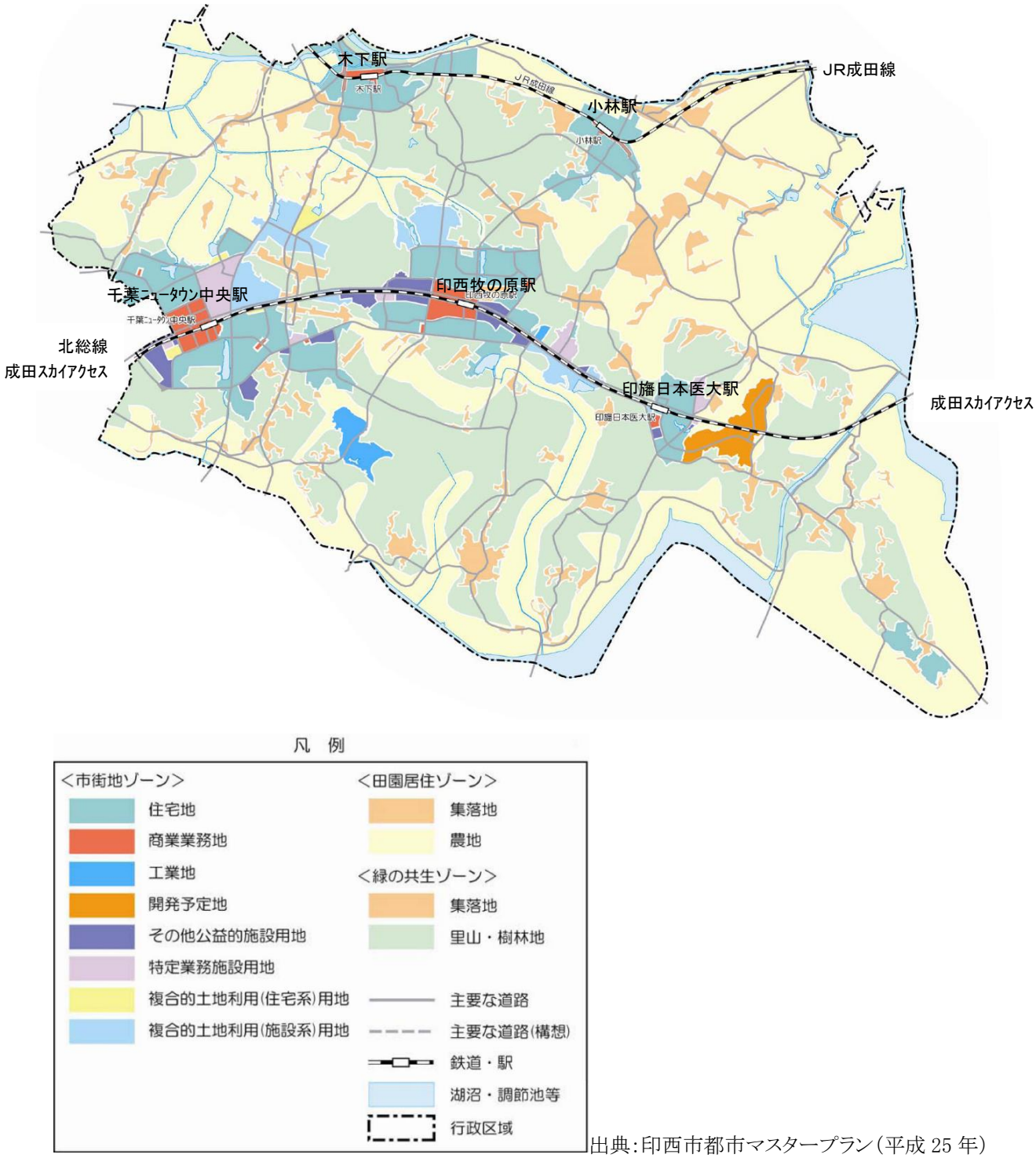
【都市的土地利用】
- 住宅用地
- 商業用地
- 工業用地
- 運輸施設用地
- 公共施設用地
- 文教・厚生用地
- 公園・緑地
- ゴルフ場等
- 未建設宅地(造成完了)
- 用途改変中の土地(造成中)
- 屋外利用地(駐車場、資材置場等)
- 道路用地
- 交通施設用地
- 市街化区域界

出典:印西市都市マスタープラン(平成 25 年)

図 3　土地利用現況図

（2）都市計画

・印西市の土地利用の方針は、鉄道駅の周辺地域に市街地ゾーンを配置し、各駅の直近を商業業務地、これを囲むように住宅地を配置、さらに、この周りに特定業務施設用地や施設系用途、工業地を配置し、駅を中心に市街地が形成されるよう、土地利用の誘導を図っています。
・このように、鉄道駅の周辺に都市的土地利用を配置していることから、市内に多くの拠点が配置され、分散型の都市構造となっていることが特徴です。

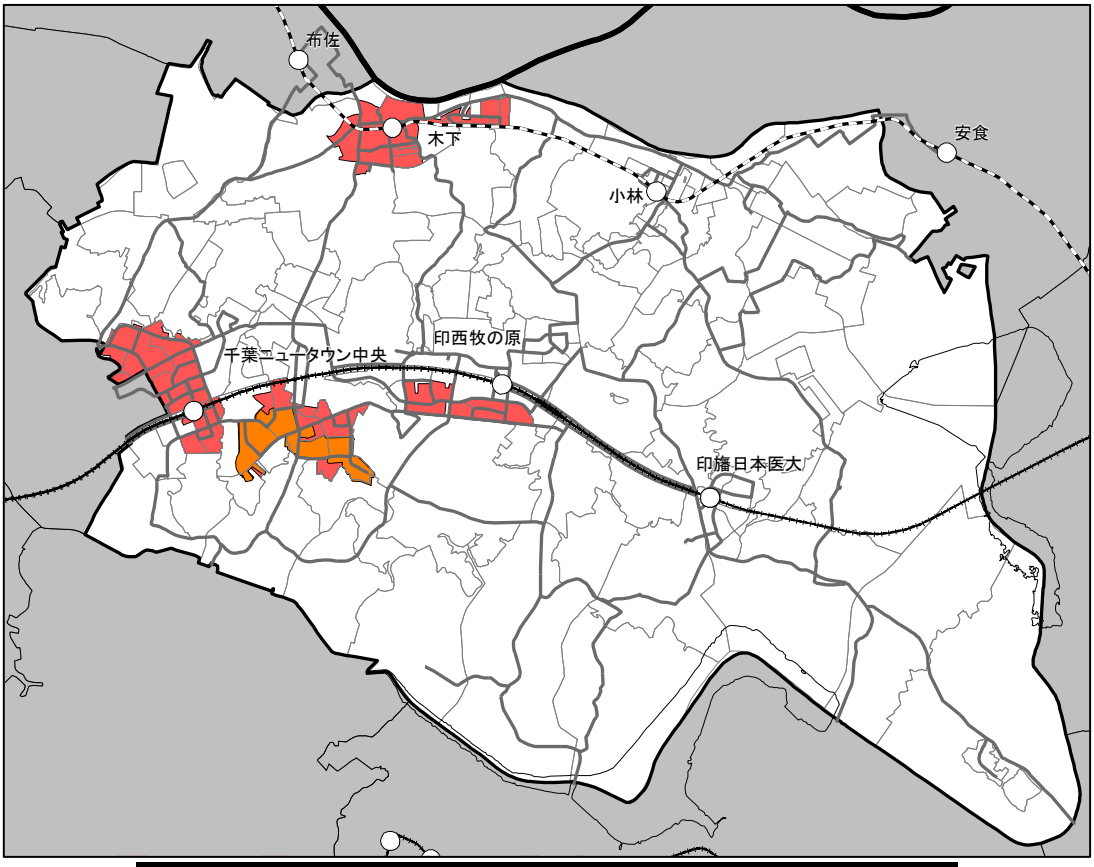


出典:印西市都市マスタープラン（平成 25 年）

図 4　土地利用方針図

(3)人口集中地区(DID)の状況

・印西市の人口集中地区（ＤＩＤ）は、千葉ニュータウン中央地区入居開始（昭和 59 年(1984 年)）から 6 年後の平成 2 年(1990 年)で初めて出現し、千葉ニュータウン地区のうち高花地区、内野地区、原山地区の一部地域が人口集中地区となっていました。これが、平成 27 年(2015 年)になると、千葉ニュータウン地区は、千葉ニュータウン中央駅周辺、印西牧の原駅周辺に拡大、また、木下駅周辺が人口集中地区となっています。



凡 例

JR 線	人口集中地区(DID)
私鉄	平成2年～人口集中地区
鉄道駅	平成27年人口集中地区
バス路線	※平成2年以前までDIDなし

※DID の判定基準は国勢調査で用いられる基本単位区等(おおむね数十世帯)を基本として「①人口密度が 4000 人/km^{2}以上の基本単位区等が互いに隣接し」、「②これらの合計人口が 5000 人を上回る」の両方を満たすこととされています。なお、基本単位区等の面積から学校・運動場・工場・事務所・病院・空港等の施設の面積を除いた人口密度が 4000 人/km^{2}を上回る、もしくは基本単位区等の 1/2 以上を占める場合は①を満たしているものとみなされます。

出典:国勢調査、国土数値情報

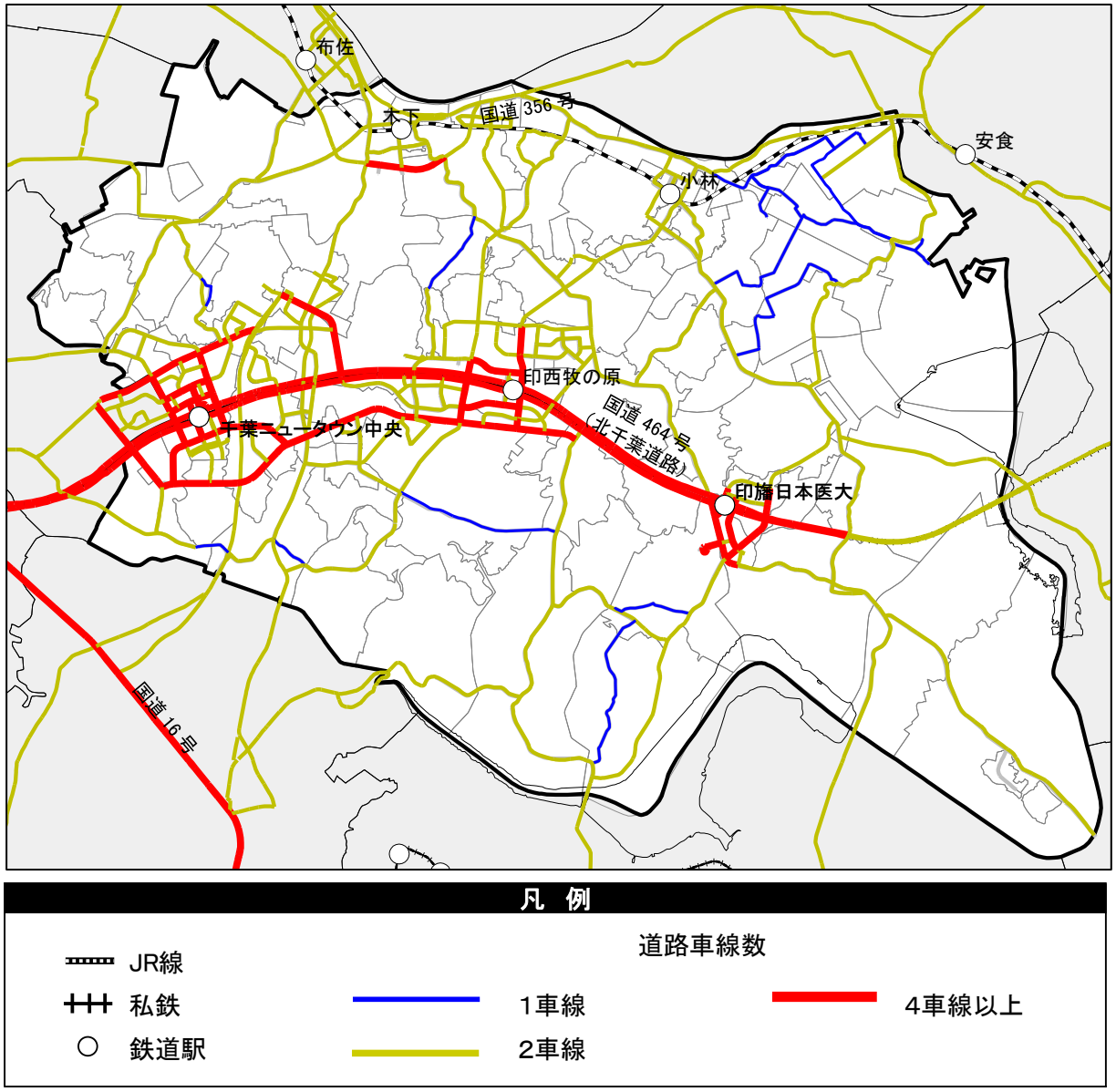
図 5　人口集中地区(DID)

1.1.4 道路整備状況

・印西市内の道路網は、国道 464 号(北千葉道路)が 2～8 車線で市中央部を東西に貫き、また、市北部の利根川に並行して国道 356 号が 2 車線で整備されています。そして、南北方向に 2 車線の県道等が整備されています。

・また、千葉ニュータウン地区では、2、4 車線の街路が密度高く配置され、市街地を形成しています。

※本図では、一般国道、主要地方道、一般県道、 4 車線以上の市道、整備済都市計画道路、バス路線となっている道路を表示しています。



出典:デジタル道路地図(H29、一般財団法人 日本デジタル道路地図協会)を基に作成

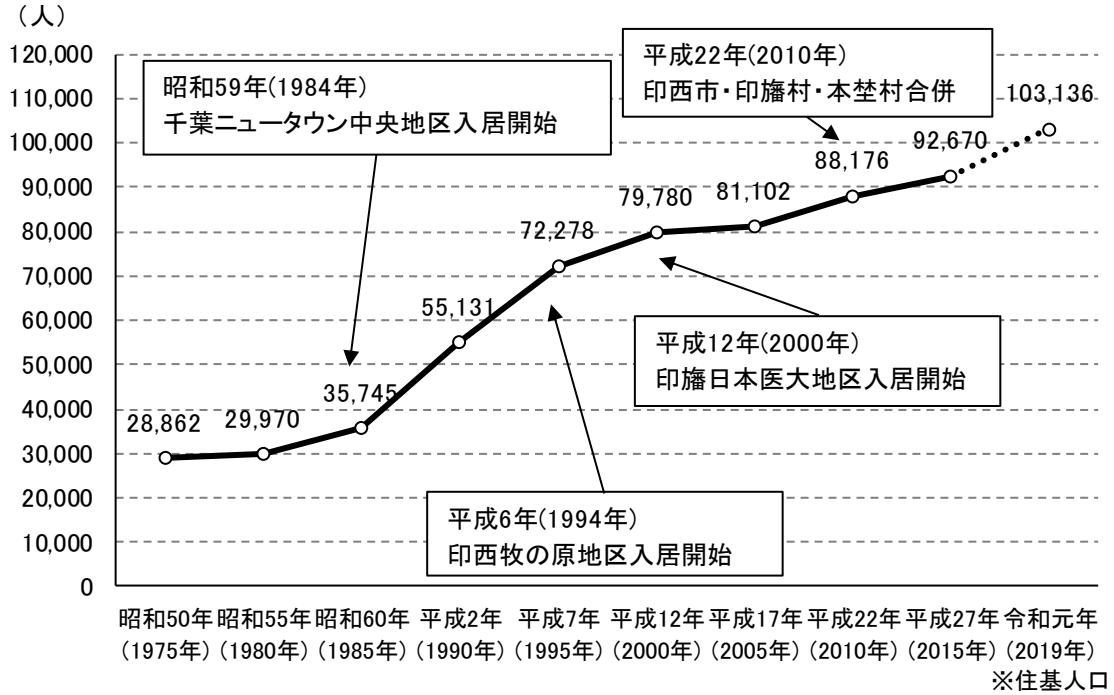
図 6 印西市及び周辺地域の道路の車線数

1.2 社会情勢、経済状況

1.2.1 人口、世帯

(1)印西市総人口の推移

・印西市の人口は、昭和 50 年(1975 年)から昭和 55 年(1980 年)までは微増でしたが、昭和 59 年(1984 年)に千葉ニュータウン中央地区の入居が始まり、さらに、平成 6 年(1994 年)には印西牧の原地区で入居が始まったことで、平成 12 年(2000 年)まで大きく増加しました。
・平成 12 年(2000 年)の印旛日本医大地区入居開始から平成 17 年(2005 年)までは増加が鈍化したものの、その後も増加を続け、平成 27 年(2015 年)には 92,670 人に達しています。なお、住民基本台帳に基づく人口は、令和元年で 103,136 人と 10 万人を越えています。

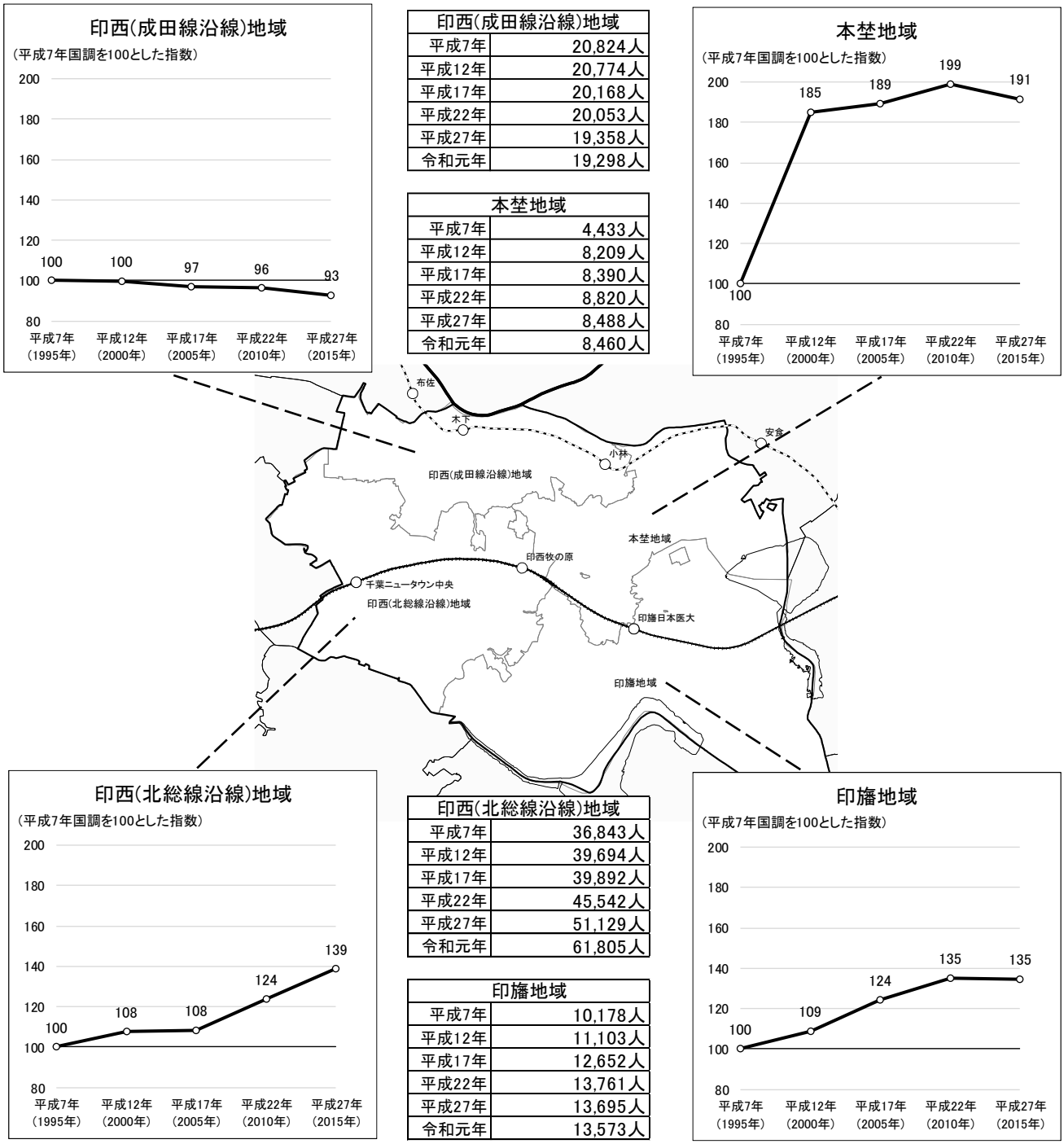


出典:国勢調査(平成 22 年以前は 3 市村合計)、印西市住民基本台帳人口(令和元年 10 月)

図 7 印西市総人口の推移

（2）地域別人口の推移

・市内を 4 地域に分け、それぞれの人口の推移をみたところ、印西（成田線沿線）地域は平成 7 年（1995 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて減少しています。
・一方、その他の地域では増加しており、平成 7 年（1995 年）を 100 とした場合の平成 27 年（2015 年）は、印西（北総線沿線）地域 139、印旛地域 135、本埜地域 191 となっています。
・なお、平成 27 年（2015 年）から令和元年（2019 年）にかけては、印西（北総線沿線）地域では増加していますが、他の 3 地域では減少しています。



印西(成田線沿線)地域	
平成7年	20,824人
平成12年	20,774人
平成17年	20,168人
平成22年	20,053人
平成27年	19,358人
令和元年	19,298人

本埜地域	
平成7年	4,433人
平成12年	8,209人
平成17年	8,390人
平成22年	8,820人
平成27年	8,488人
令和元年	8,460人

印西(北総線沿線)地域	
平成7年	36,843人
平成12年	39,694人
平成17年	39,892人
平成22年	45,542人
平成27年	51,129人
令和元年	61,805人

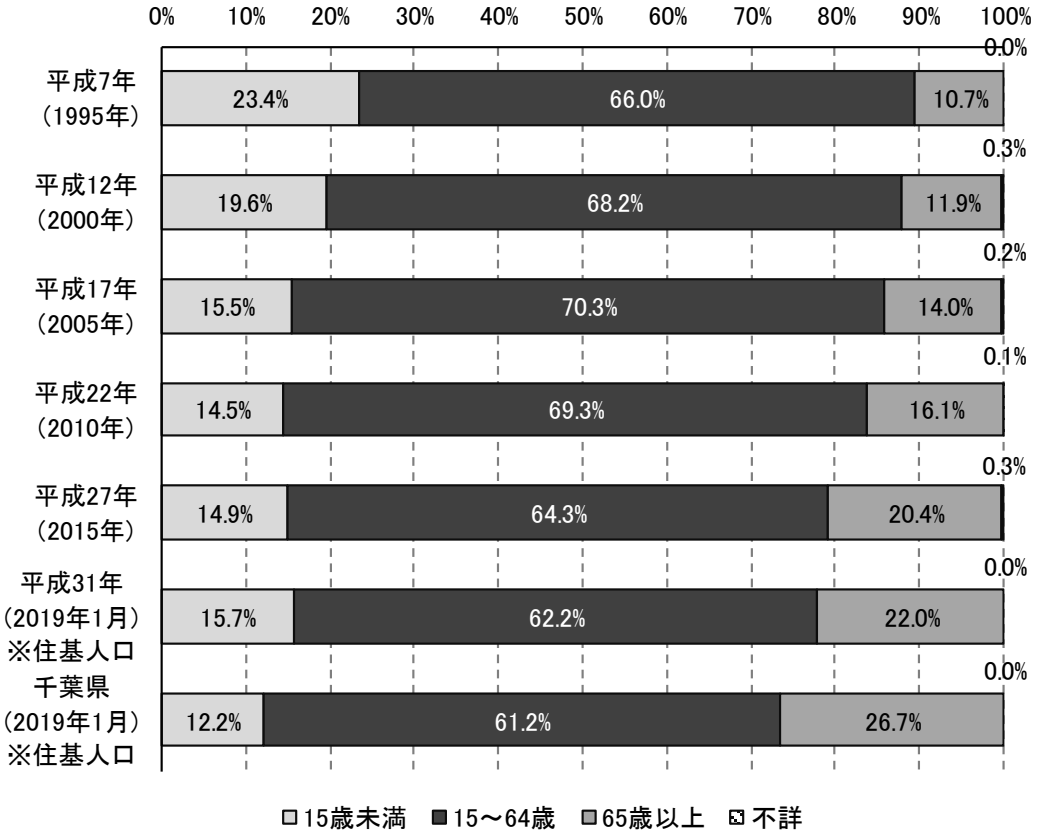
印旛地域	
平成7年	10,178人
平成12年	11,103人
平成17年	12,652人
平成22年	13,761人
平成27年	13,695人
令和元年	13,573人

出典：国勢調査（平成 27 年まで）、印西市住民基本台帳人口（令和元年 10 月）

図 8　4 地域別人口の推移（平成 7 年を 100 とした場合）

(3)年齢階層別人口の推移

・印西市の年齢階層別人口割合の推移をみると、年少人口（15 歳未満）割合は縮小する傾向にあり、高齢者人口（65 歳以上）割合は一貫して拡大しています。また、生産年齢人口（15～64 歳）は平成 17 年(2005 年)までは拡大していましたが、その後、縮小に転じています。
・その結果、平成 27 年(2015 年)では、年少人口(15 歳未満)14.9%、生産年齢人口(15～64 歳)64.3%、高齢者人口(65 歳以上)20.4%となっています。
・なお、千葉県全体と比較すると、印西市は、年少人口及び生産年齢人口の割合が高くなっています。



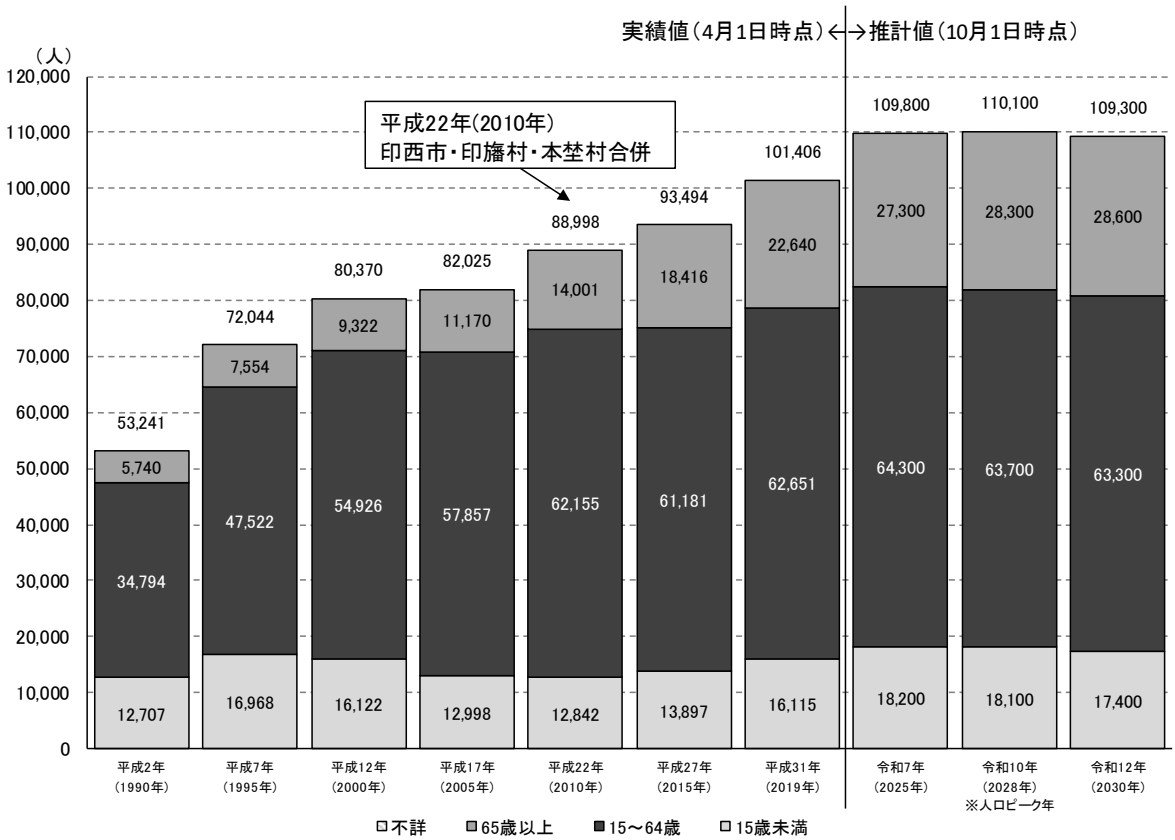
出典:国勢調査(平成 27 年まで)、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(平成 31 年 1 月)

図 9 印西市年齢階層別人口割合

(4)将来人口

・印西市の将来推計人口によると、印西市は令和 10 年(2028 年)の 110,100 人をピークに、その後、減少に転じると推計されています。
・年齢区分別では、高齢者人口（65 歳以上）は増加する傾向になると推計されています。
・生産年齢人口（15 歳から 64 歳未満）は、令和 7 年（2025 年）がピークで、以後は減少すると推計されています。
・年少人口（15 歳未満）は、近年、増加傾向にありましたが、令和 7 年（2025 年）をピークに減少していくと推計されています。
・なお、住民基本台帳に基づく平成 31 年(2019 年)の人口は 10 万人を超えており、将来推計人口の動向は現在の推計から変容することが予想されますが、長期的には、総人口の減少と高齢者人口の増加という傾向は継続するものと考えられます。

※将来推計人口の推計方法
・コーホート要因法（2024 年以降は開発による流入人口を変化させるために、開発無しの移動人口を推計後に開発人口を加算する方法にしている。）
(1) 2019 年～2023 年：2013 年～2018 年の人口動態に基づく移動率による推計。
(2) 2024 年-2030 年 ：開発による人口流入数を控除した封鎖人口による推計。開発による人口流入数を加算。



出典:千葉県年齢別・町丁字別人口(平成 29 年まで)、「将来人口および世帯数推計の内訳」(印西市)

図 10 印西市の総人口の推移と将来推計人口

（5）メッシュ別人口（500mメッシュ）

ここでは、500mメッシュの人口を基に、地域別の分布状況や変化の状況を把握しました。

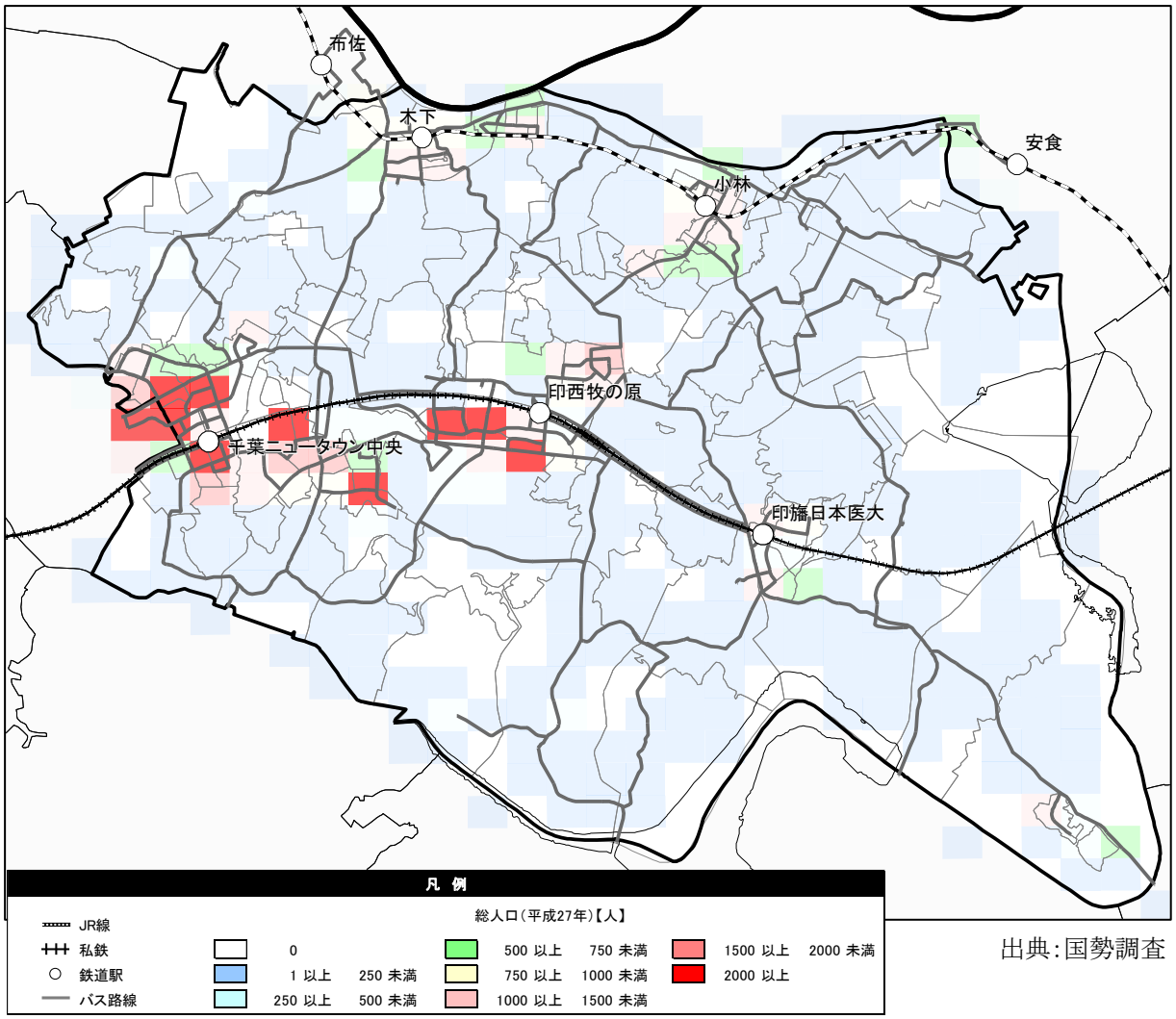
500mメッシュで人口 1,000 人の場合、1 ㎢あたりに換算すると 4,000 人/㎢、1ha あたりでは 40/ha となり、これは、人口集中地区(DID)の判断基準に相当します。また、人口 2,000 人の場合は、8,000 人/㎢、80/ha となります。

（参考）「都市計画運用指針」では、市街地の適正な人口密度の想定として、土地の高度利用を図るべき区域では 100 人/ha 以上、その他の区域では 80 人/ha 以上を目標とし、土地利用密度の低い地域でも 60 人/ha 以上を基本とすることが望ましいとされています。

1）メッシュ別人口 【総人口】

・千葉ニュータウン地区や鉄道駅周辺の人口が多く、特に、千葉ニュータウン中央駅や印西牧の原駅の周辺において、人口の多いメッシュが見られます。

・鉄道駅周辺以外では、市南東部の平賀学園台地区に人口の多いメッシュが見られます。また、250 人未満の集落や農業地域が広範囲に分布し、鉄道駅から遠く人口が少ないものの、移動の発生元となる居住者が広く存在していることがわかります。

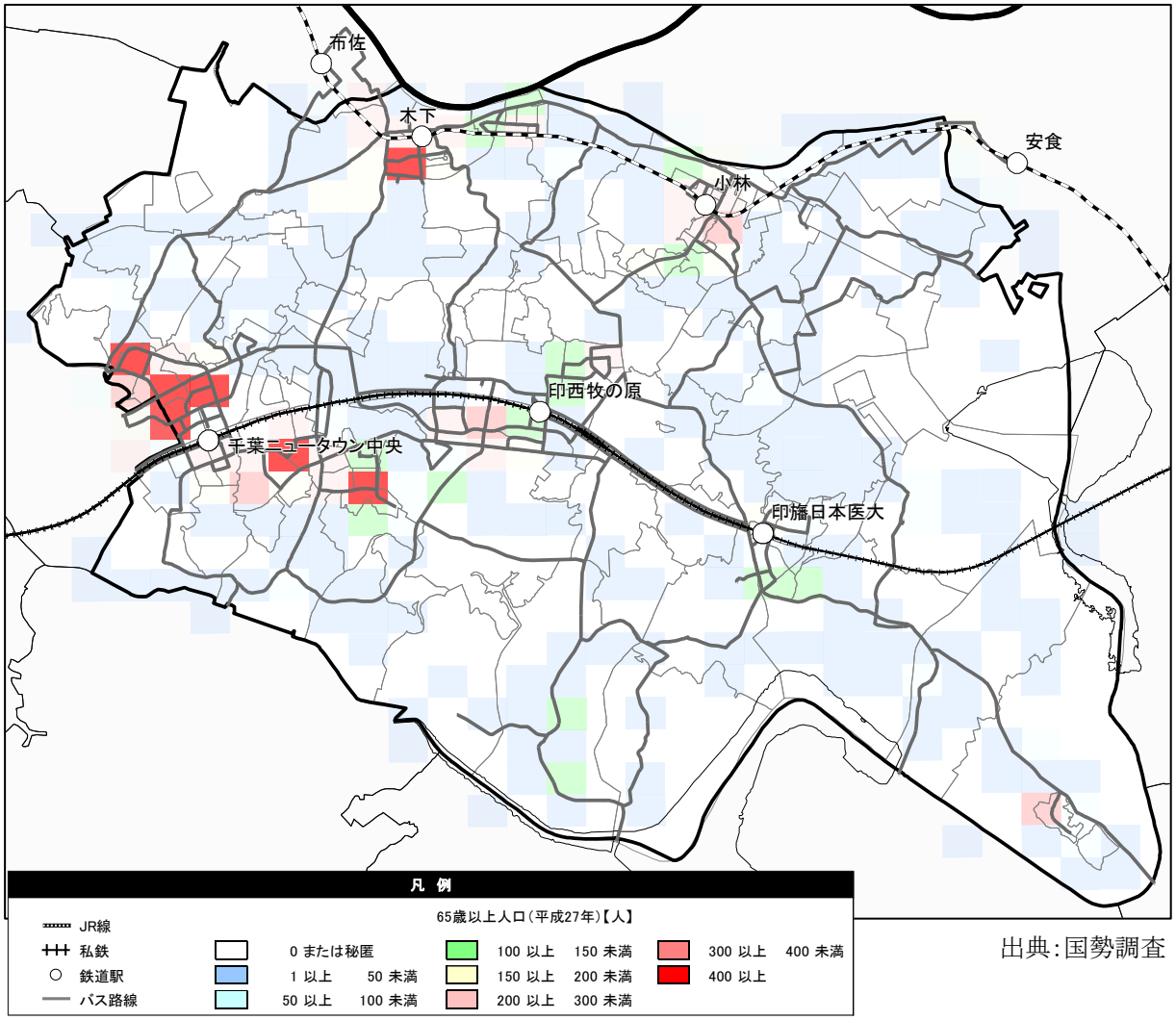


出典：国勢調査

図 11　　メッシュ別人口（総人口）（平成 27 年）

2）メッシュ別人口 【65 歳以上】

・65 歳以上人口が多い地域は、千葉ニュータウン地区のうち千葉ニュータウン中央駅周辺、印西牧の原駅周辺の一部、木下駅・小林駅の周辺、平賀学園台の一部地域に見られます。特に、千葉ニュータウン中央駅周辺は、65 歳以上人口が 400 人以上のメッシュが多く見られます。これは、入居開始時期が比較的早かったことから、高齢化が他地域よりも早く進んだものと考えられます。

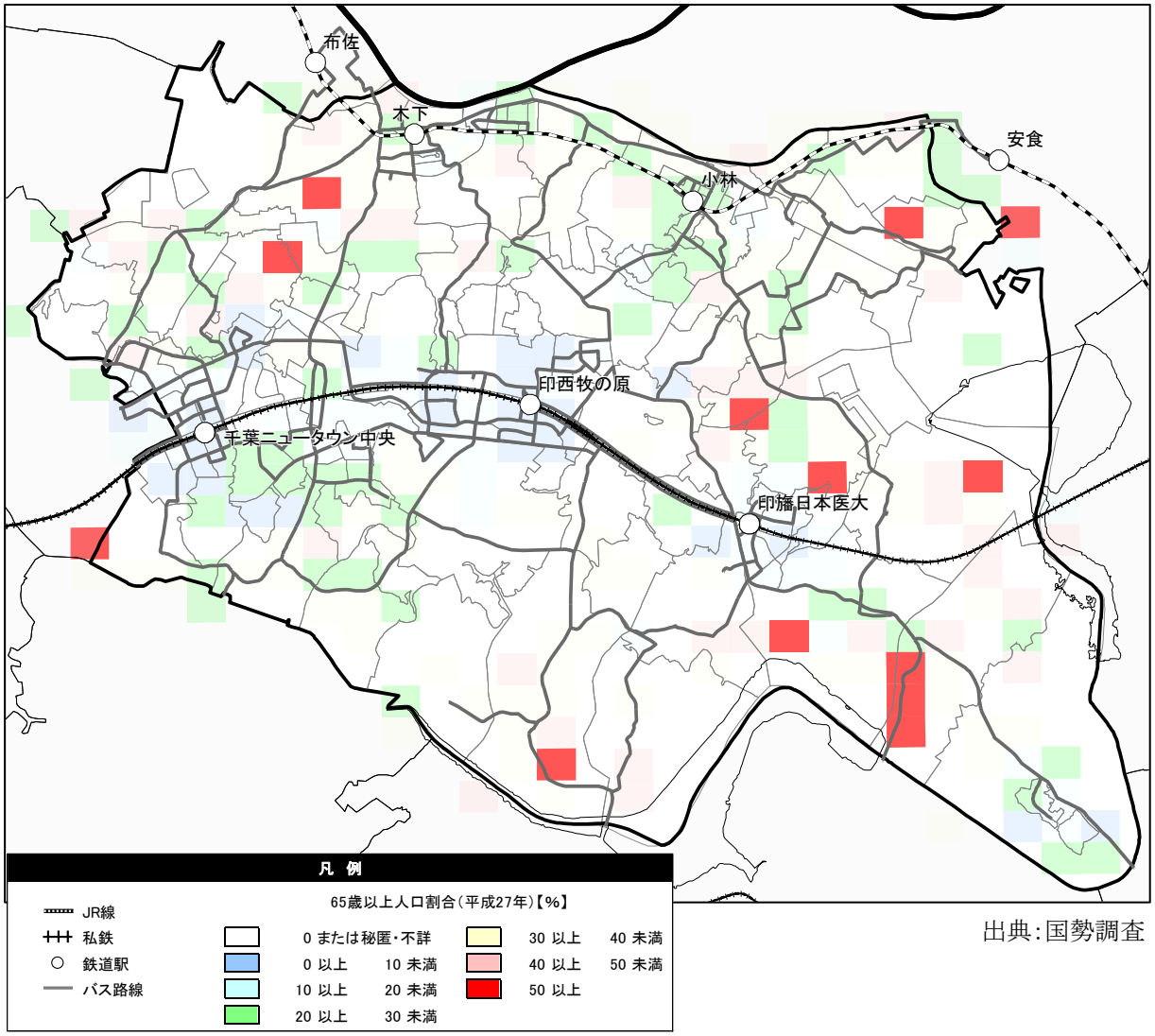


出典：国勢調査

図 12 メッシュ別人口（65 歳以上）（平成 27 年）

3）メッシュ別人口 【65 歳以上人口割合】

・メッシュ別の 65 歳以上人口割合で見ると、65 歳以上人口が多いメッシュが見られた千葉ニュータウン中央駅周辺は低くなっています。
・一方、印旛地域のうち鉄道駅から離れた集落地域の 65 歳以上人口割合は高くなっています。このような地域は、65 歳以上人口そのものは比較的少ないものの、若い世代も少なく、移動上の課題として、同居の家族などの送迎の担い手が少ないことが伺えます。

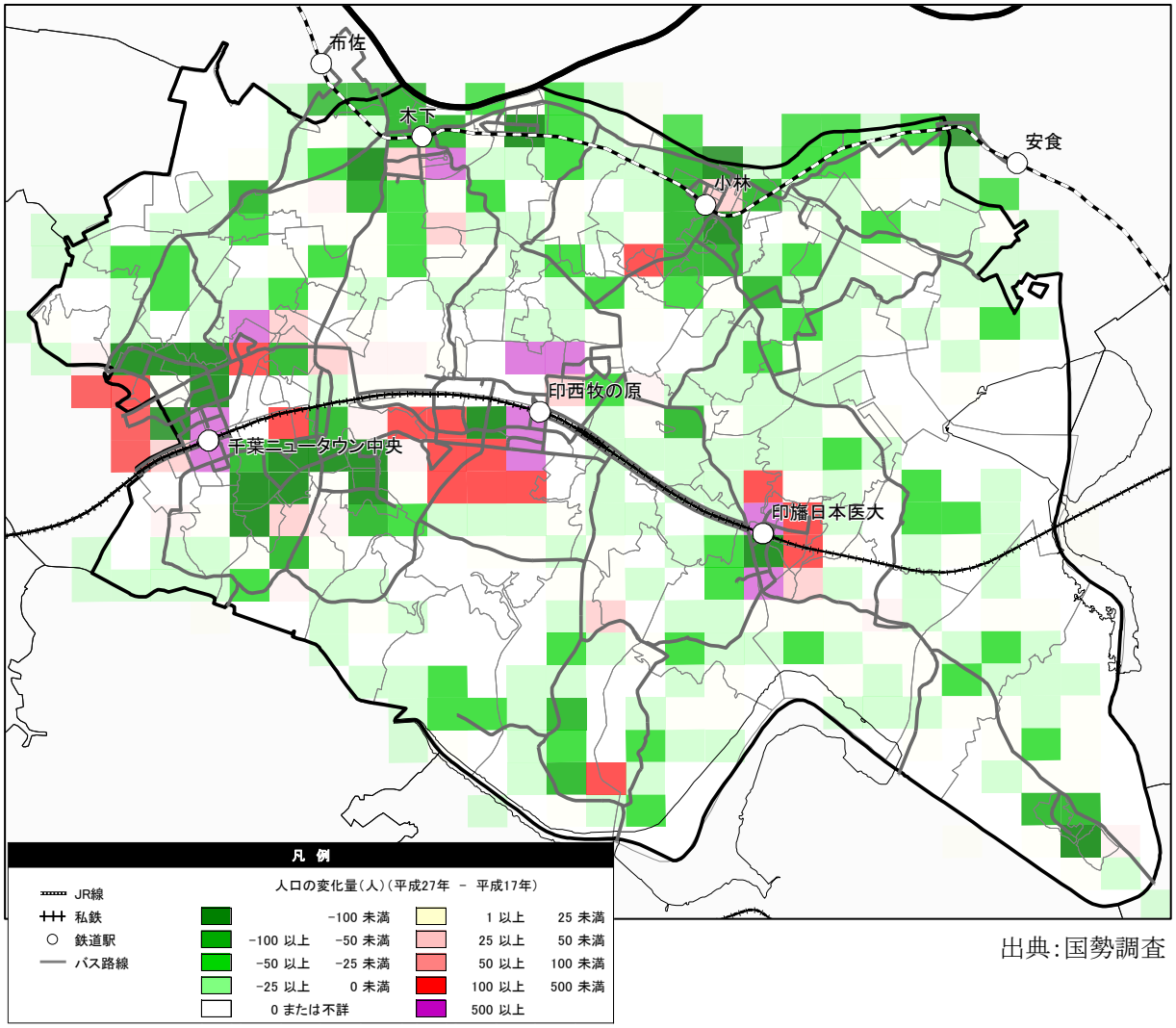


出典：国勢調査

図 13 65 歳以上人口メッシュ人口割合（平成 27 年）

4)メッシュ別人口 【総人口の変化(平成 17 年から平成 27 年)】

・平成 17 年(2005 年)から平成 27 年(2015 年)までの 10 年間の総人口の変化を見ると、千葉ニュータウン地区のうち、特に駅に近いメッシュでの人口増加が大きいことが特徴です。
・一方、千葉ニュータウン地区のうち、高花地区、原山地区、内野地区、木刈地区などでは、100 人以上減少しているメッシュが多くなっています。これらは、千葉ニュータウンの早い時期に入居した地区に相当し、高齢化が進んだことなどが要因の一つとして考えられます。

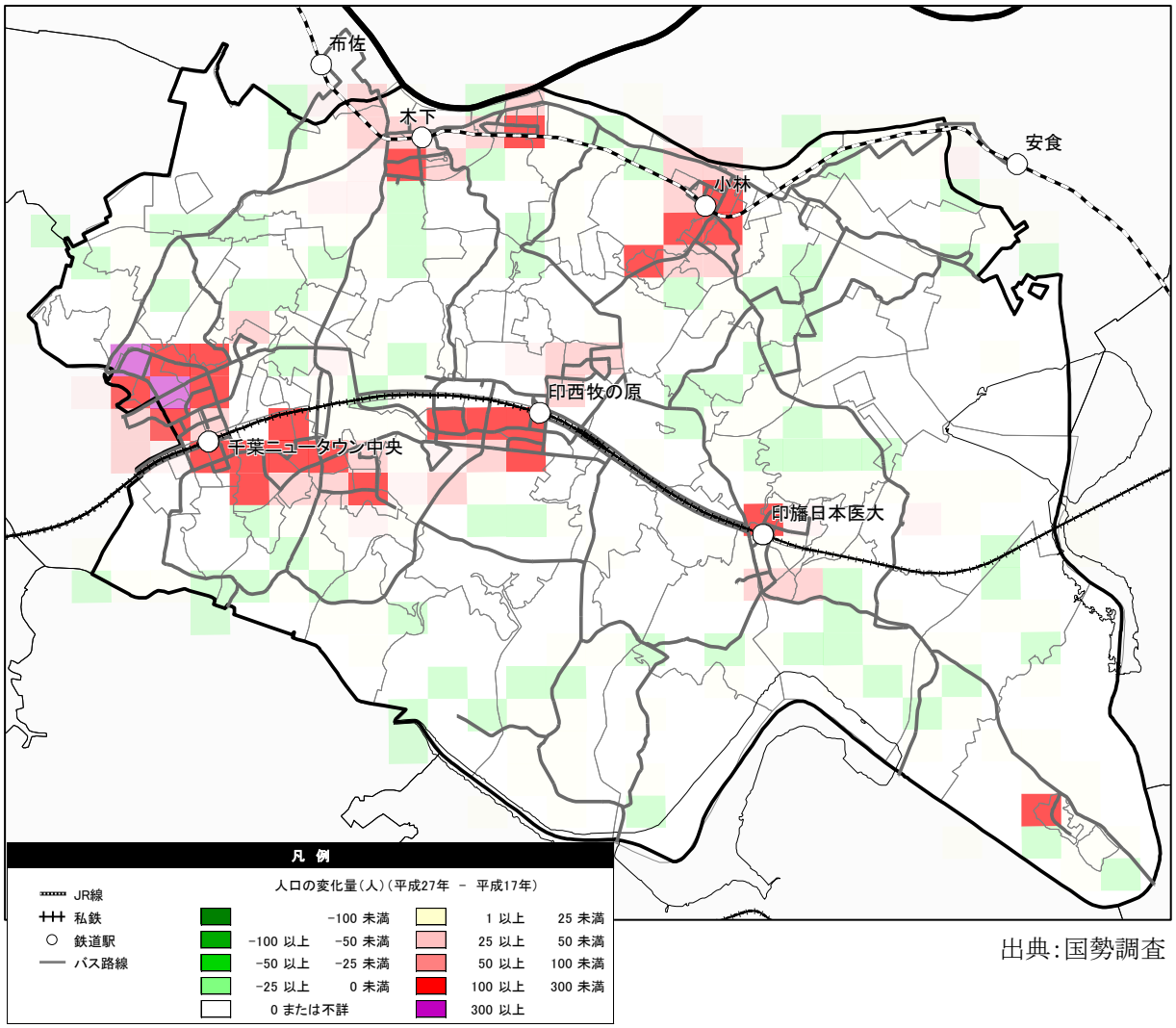


出典:国勢調査

図 14 人口メッシュの変化(総人口)(平成 17 年から平成 27 年)

5)メッシュ別人口 【65 歳以上人口の変化(平成 17 年から平成 27 年)】

・平成 17 年(2005 年)から平成 27 年(2015 年)までの 10 年間の 65 歳以上人口の変化をみると、千葉ニュータウン中央駅周辺で 100 人以上増加のメッシュが多く分布し、特に、木刈地区では 300 人以上増加のメッシュが見られます。そのほか、各鉄道駅周辺、平賀学園台の一部地区でも 100 人以上増加のメッシュが見られます。
・一方、鉄道駅から離れた集落地域では 25 人未満の増加・減少のメッシュが多くなっています。

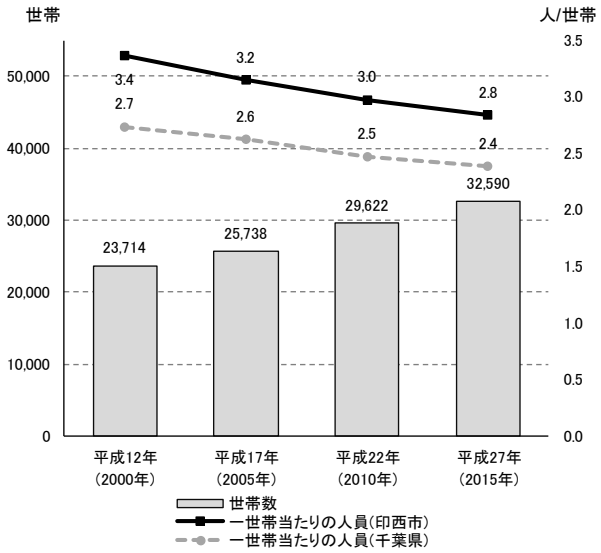


出典:国勢調査

図 15 65 歳以上人口メッシュの変化(平成 17 年から平成 27 年)

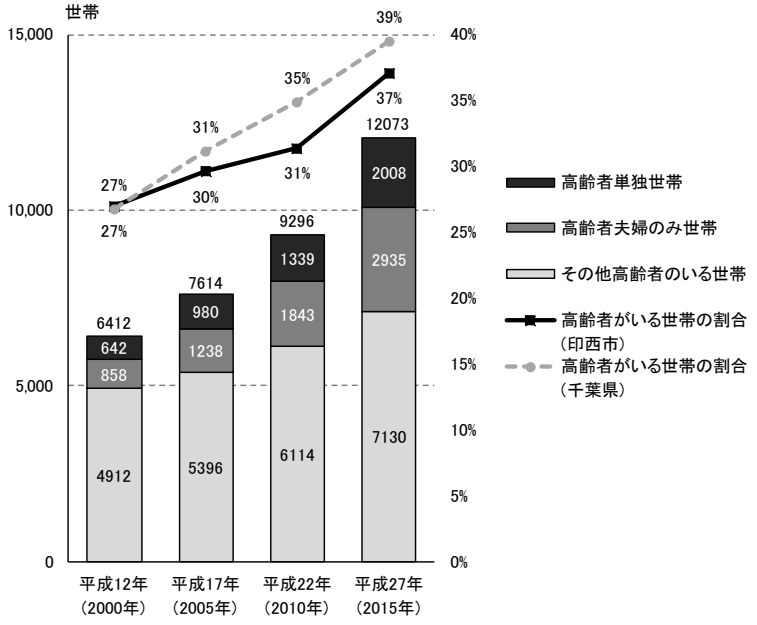
(6)世帯数・一世帯あたり人員

・印西市の世帯数は一貫して増加傾向にあり、特に、平成 22 年(2010 年)から平成 27 年(2015 年)にかけて大きく増加しています。
・一方、一世帯当たり人員は減少しており、平成 12 年(2000 年)の 3.4 人/世帯に対し、平成 27 年(2015 年)では 2.8 人/世帯となっています。また、千葉県全体と比較すると、印西市は一世帯当たりの人員は多くなっています。
・高齢者（65 歳以上）がいる世帯数は増加しており、平成 27 年(2015 年)では全世帯の 37%を占めています。また、高齢者単独世帯、高齢者夫婦のみの世帯数も増加しています。
・高齢者のみの世帯の増加により、移動において同居家族による支援が期待できない世帯の増加の可能性が高まり、高齢者の外出移動における課題になることが考えられます。



出典:国勢調査

図 16 印西市の世帯数と一世帯当たり人員の推移



出典:国勢調査

図 17 印西市における高齢者(65 歳以上)のいる世帯数の推移